

イノベーションに情熱を。  
ひとに思いやりを。

公益社団法人  
全日本登録販売者協会



本資料は、一種の著作物でもあります。  
本資料の取扱いにつき、以下の3点を厳守してください。

- ①本資料の第三者への提供を禁止します。
- ②本資料の二次利用を禁止します。
- ③接客時に本資料を使用することを禁止します。

お客様への説明で利用できる医薬品情報の範囲は、承認審査で審査の対象となった情報の範囲に限られ、本資料はその範囲を超える可能性があります。

公益社団法人 全日本医薬品登録販売者協会

## 「熱だ！ 風邪かも」

本資料は学術宣伝用資料の為  
店頭POP・チラシ、接客用としてお使いにならないでください。

Fit for You

健やかなライフスタイルをつくるパートナーへ

第一



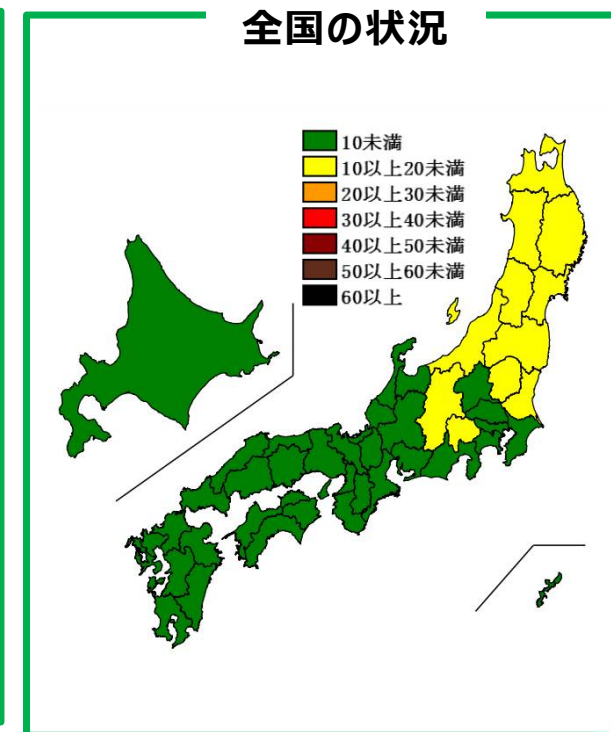
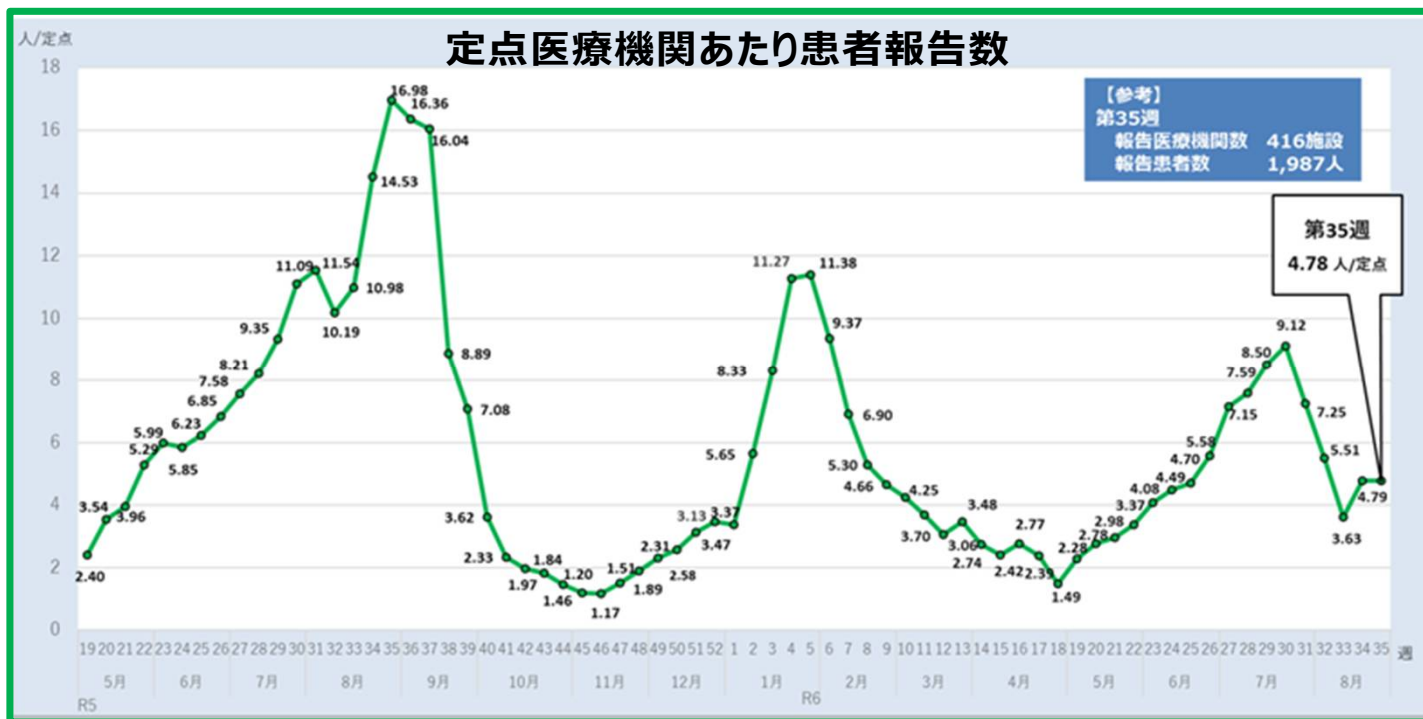
# ■ 新型コロナウイルス感染症情報

## 第35週（8月26日～9月1日）のトピックス

定点医療機関当たり患者報告数は、定点当たり **4.78人**

➤ 新型コロナウイルス感染症による集団発生事例の報告数 **25件**

➤ 全国における定点医療機関当たり患者報告数は、定点当たり **7.46人**



## ■ 第11波到来

夏場は冷房を効かせるために**換気が行われにくく、マスクを外す人も増える**ことから感染が広がりやすい。

オミクロン株の1種、「**KP.3**」と呼ばれる新しい変異ウイルスが広がっている。

日本だけでなく、欧米などの北半球で流行の主流になっている。

✓ 過去の感染やワクチンによる**免疫を逃れる能力が高い**ことが分かっている。

✓ **感染力がやや強い**。(症状の重さなどについてはこれまでと変わらないとされている)

### 代表的な症状

#### 全身症状

- ・倦怠感・疲労感
- ・筋力低下
- ・関節痛
- ・筋肉痛
- ・手足のしびれ



#### 呼吸器症状

- ・息切れ
- ・咳
- ・喀痰
- ・胸痛



#### 精神・神経症状

- ・集中力低下
- ・不眠
- ・頭痛
- ・記憶障害
- ・抑うつ



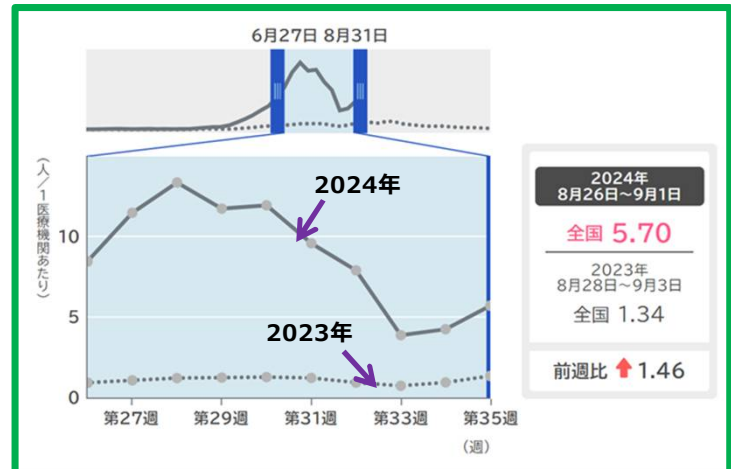
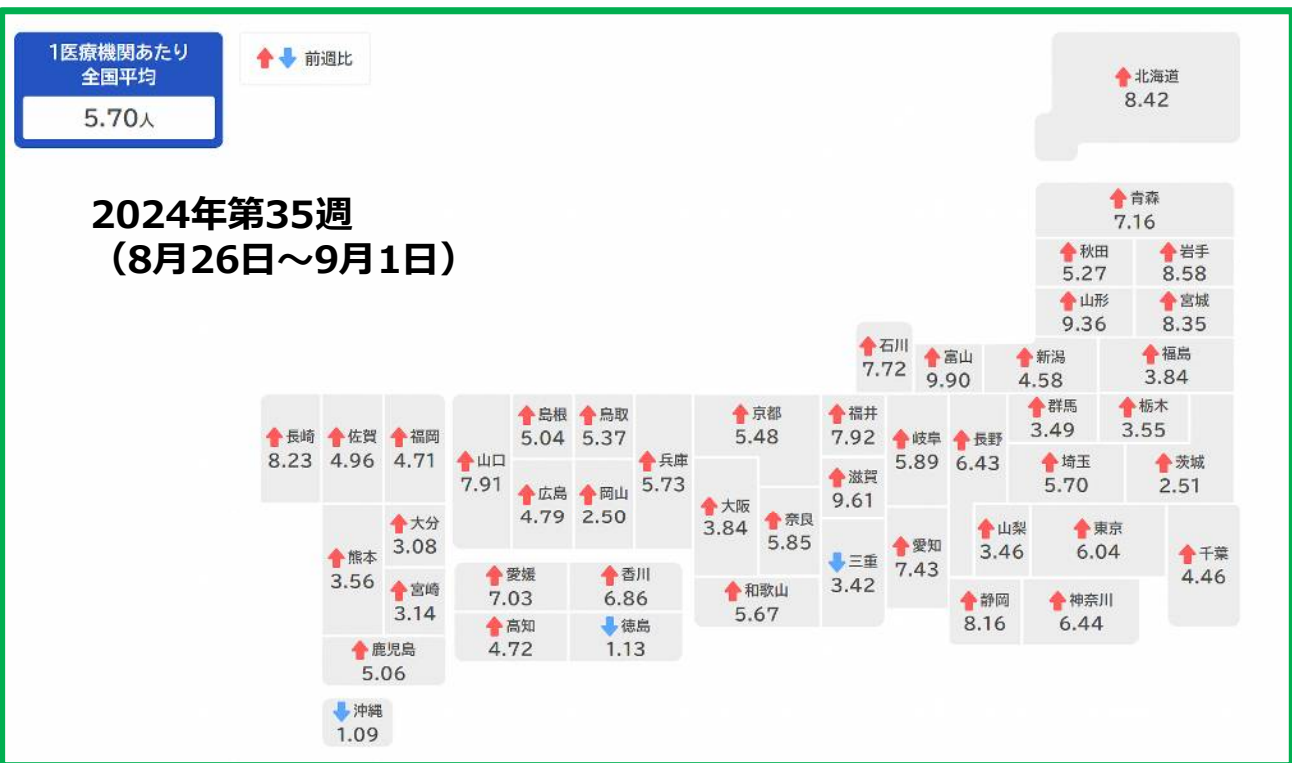
#### その他の症状

- ・嗅覚・味覚障害
- ・脱毛
- ・下痢
- ・腹痛
- ・動悸



# ■ 手足口病

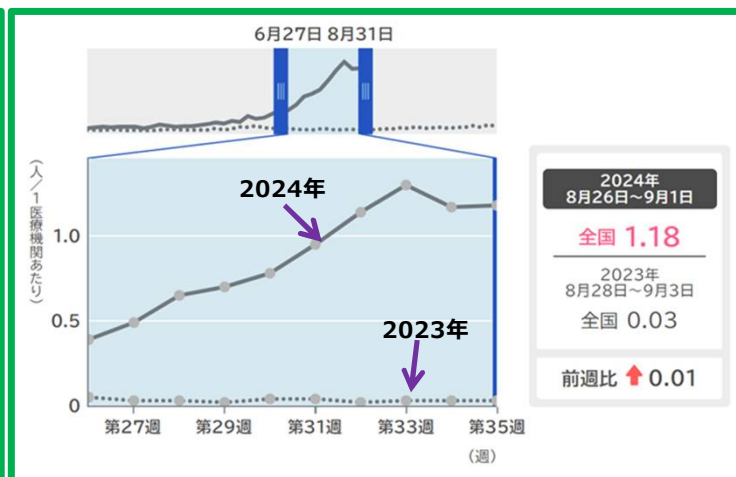
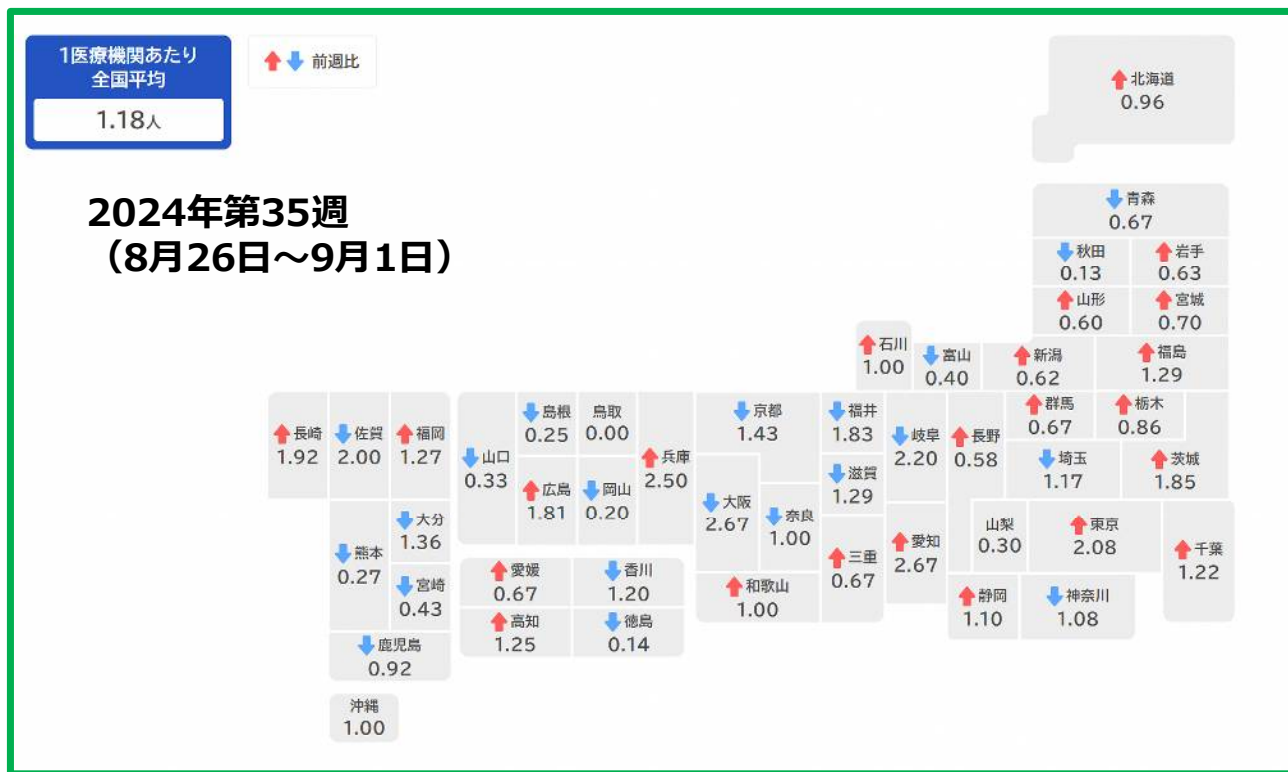
手足口病は、ウイルスが原因で夏に流行しやすい感染症です。2019年の日本での患者数は、約40万人。**大人も発症しますが、子どもに多い感染症。**  
 手足口病の多くは**自然に回復しますが、子どもの場合は、時に重症になることがある。**



出典：NHK  
<https://www.3.nhk.or.jp/news/special/infection/dashboard/teashikuchi.html>

# ■ マイコプラズマ肺炎

**細菌**の一種「**マイコプラズマ**」によって引き起こされる。患者の多くが子どもや若い人。自然に回復することが多いのですが、中には重症化することがあり、**呼吸困難を起こして長期入院**になることもある。**特に14歳以下の子どもでは注意が必要**。



**マイコプラズマ肺炎の特徴**




- 鼻水 鼻づまりの症状が少ない
- たんのない乾いたせき

**マイコプラズマ**

- 耳に入ると **中耳炎**
- 胃や腸に入ると **おう吐 下痢**



## 【参考】三大夏かぜ

	咽頭結膜熱 (プール熱) 	手足口病 	ヘルパンギーナ 
流行期間	6-8月	主に6-9月	5-8月
主な病原体	アデノウイルス	エンテロウイルス (エンテロウイルス属)	コクサッキーウイルス (エンテロウイルス属)
症状	発熱に始まり、頭痛、食欲不振、倦怠感、喉の痛みが生じる。結膜炎に伴う充血や痛みが3-5日続く。	口内、手のひら、足の裏などに2-3ミリの水疱ができる。3-7日で消える。1/3ほどの患者に38℃以下の発熱。	38-40℃の発熱に始まり、口の奥に1-2mmの水疱ができる。2-4日で熱は治まり、その後、発疹も消える。
注意点	新生児は重症化することもある	まれに髄膜炎、脳炎などの合併症	まれに髄膜炎、急性心筋炎などの合併症



# 【参考】感染症データ（NHK）



**感染症データと医療・健康情報**  
 新型コロナとインフルエンザや手足口病など約20種類の感染症についてデータと情報をお伝えします。

TOP    新型コロナ    **約20種類の感染症データ**    最新ニュース    NHK きょうの健康

**約20種類の感染症データ・情報**  
 全国の感染症の感染状況のデータです。  
 約20種類の感染症について全国の感染者数推移や都道府県ごとの感染者数をお伝えしています。

地域 **全国**    感染症 **—**    ▼ 全国・都道府県から選ぶ    ▼ 感染症から選ぶ

**全国の感染状況**    ↑↓ 前週比    🧒 子どもに多い感染症    ▶ このサイトとデータの見方はこちら

新型コロナ ↑ 上昇	手足口病 ↑ 上昇	感染性胃腸炎 ↓ 下降	咽頭結膜熱 ↓ 下降	突発性発しん ↓ 下降	りんご病 変化なし	梅毒 ↑ 上昇	風疹 ↑ 上昇
インフルエンザ ↑ 上昇	ヘルパンギーナ ↑ 上昇	RSウイルス ↑ 上昇	みずぼうそう(水痘) ↑ 上昇	A群溶連菌感染症 ↓ 下降	劇症型溶連菌感染症 変化なし	エムボックス 変化なし	はしか(麻疹) 変化なし

**全国の感染状況**  
 地域 **全国**    感染症 **—**



## ■ 風邪を引き起す代表的なウイルス

風邪の原因は**ウイルス感染が90%**、残りの10%は細菌によるもの。  
ウイルスは**200種類以上**、どのウイルスに感染したかを特定するのは難しく、**毎年変異**する。

主な風邪のウイルス	主な特徴
ライノウイルス	<b>風邪の原因の約30～40%を占める</b> 。秋や春に多く、主に <b>鼻風邪</b> を引き起こす。
コロナウイルス	ライノウイルスの次に多く、主に冬に流行する。 <b>鼻やのどの症状</b> を起こし症状は軽い。
アデノウイルス	冬から夏にかけて多い。 <b>プール熱</b> の原因もこのウイルス。 <b>咽頭炎や気管支炎、結膜炎</b> なども起こす。
パラインフルエンザウイルス	鼻やのどの風邪を起こすウイルスで、 <b>子供に感染すると大人より重症になりやすい</b> 。 秋に流行する型と春～夏に流行する型がある。
RSウイルス	年間通じて流行、冬に多い。 <b>乳幼児に感染すると気管支炎や肺炎を起こす場合がある</b> 。
エンテロウイルス	夏に流行するウイルス。風邪の症状のほか <b>下痢を起こしたりする</b> 。

\* **インフルエンザ・COVID-19**は、かぜとは症状の重さも異なるため一般的には、かぜとは別の疾患と区分されている。



## ■ 普通感冒、インフルエンザ、COVID-19の症状の違い

症状	かぜ (普通感冒)	インフルエンザ	COVID-19
発熱	平熱～微熱	平熱～高熱	<b>高熱</b>
咳	◎	◎	◎
咽頭痛	◎	◎	○
息切れ	×	×	○
だるさ	○	◎	○
関節痛・筋肉痛	×	◎	○
頭痛	◎	◎	○
鼻水	◎	○	△
くしゃみ	◎	×	×
下痢	×	○ (特に小児)	△
におい・味覚障害	×	×	△

◎ : 頻度高い  
 ○ : よくある  
 △ : 時々ある  
 × : まれ



## ■ 店頭アドバイス（養生法）

販売時の流れ		ポイント
傾聴・観察	丁寧に良く聞く。 観察する。（症状・状態）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いつから</li> <li>・誰が</li> <li>・どのような症状(インフルエンザを除外)</li> <li>・今迄に服用した薬</li> <li>・既往歴(便秘、胃腸障害)</li> <li>・アレルギー-歴</li> </ul>
商品選択	医薬品の選択。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合感冒薬</li> <li>・症状別（のど、鼻、せき）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・なぜこの薬を選んだか （成分、製剤の特徴など）</li> </ul>
服薬指導	使用上の注意の説明。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・用法用量</li> <li>・禁忌事項</li> </ul>
共 感	養生法、予防等のアドバイス。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・休養、睡眠、保温、保湿、栄養、水分補給</li> </ul>



## ■ かぜの養生法

かぜ薬で症状を緩和させ、ウイルスに対抗できる体力を取り戻すことが重要。

### かぜの養生3原則

安静



保湿

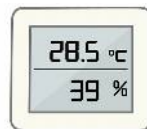


栄養



### かぜの予防法

温度・湿度の  
コントロール



十分な**栄養**と  
適度な**運動**









薄着の**習慣**  
をつくる



## 【参考】マスクの効果

風邪やインフルエンザ患者は**1回の咳で約10万個**、**1回のくしゃみで約200万個**のウイルスを放出すると言われている。  
 患者がマスクをつけることでこれらを含んだしぶきによる周囲の汚染を減少させることができる。  
 風邪やインフルエンザに罹らないためにマスクをつけても、その効果は限定的とされている。

### ■ マスクやフェイスシールドの効果 (スーパーコンピュータ「富岳」によるシミュレーション結果)

対策方法	なし	マスク			フェイスシールド	マウスシールド	
		 不織布    布マスク    ウレタン					
	吐き出し飛沫量	100%	20%	18-34%	50% <sup>※2</sup>	80%	90% <sup>※2</sup>
	吸い込み飛沫量	100%	30%	55-65 <sup>※2</sup>	60-70% <sup>※2</sup>	小さな飛沫に対しては効果なし (エアロゾルは防げない)	

※2 豊橋技術科学大学による実験値



最も効果が高い**不織布マスク**の着用が推奨される。



# ■ お客様の症状とニーズによるかぜ薬選択

## ① お客様の症状

(複数症状→総合感冒薬 / 単独症状→単独薬効剤)

■ かぜ全般の症状が複数混在→ **総合感冒薬**

(お客様の特につらい状態に合わせ)

- 熱と痛みだけ → **解熱鎮痛薬**
- 咳と痰だけ → **鎮咳去痰薬**
- 鼻症状(鼻水・鼻づまり・くしゃみ)だけ → **鼻炎用薬**

\*【併用注意】

鎮咳去痰薬、鼻炎用薬いずれにも**抗ヒスタミン薬**が配合されているので併用はしない。

## ② お客様のニーズ

常備薬、使用者の年齢、特につらい症状、漢方・生薬など。



## ■ 感冒薬配合成分（解熱鎮痛成分）

OTC解熱鎮痛薬は、**鎮痛成分**に加え、**鎮静成分**や**鎮痛補助成分（カフェイン）**、**制酸剤**などが配合されている。

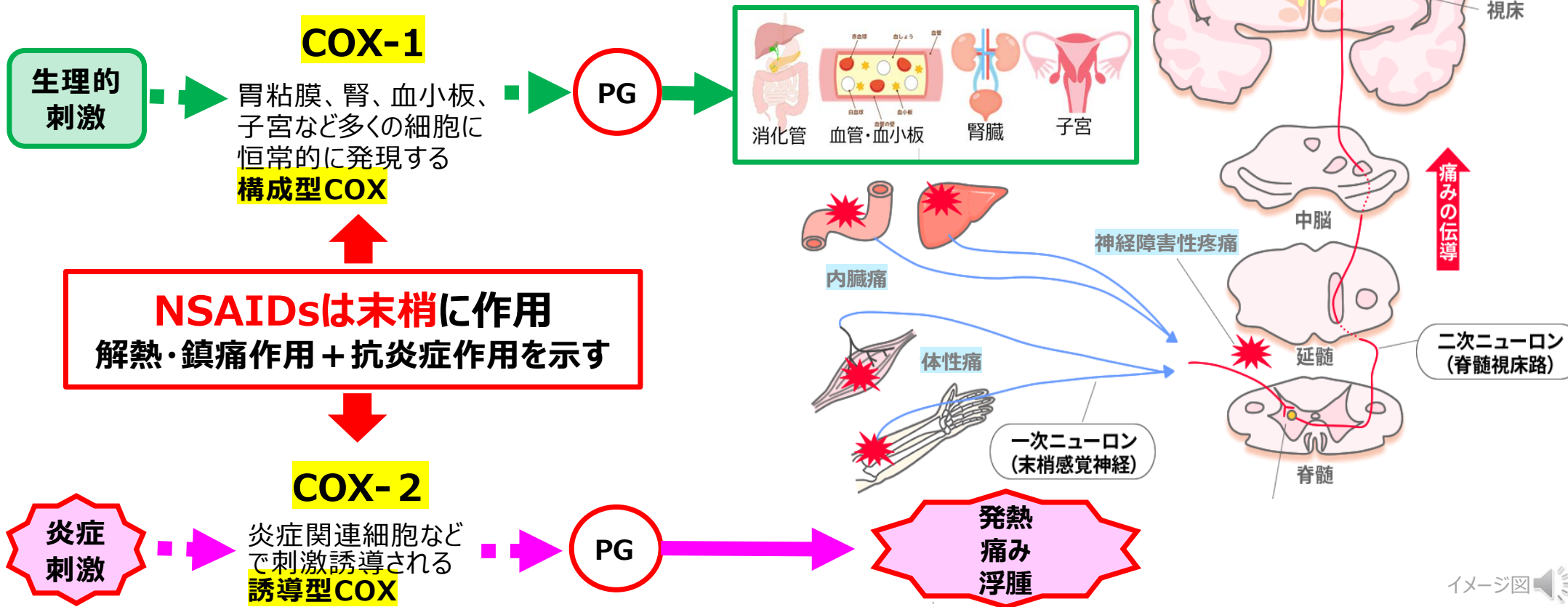
主な解熱鎮痛成分		作用	主な特徴
非ステロイド性 抗炎症薬 (NSAIDs)	ロキソプロフェン ナトリウム水和物	痛みのもととなる プロスタグランジンの 生成を抑える	解熱作用、鎮痛・抗炎症作用がある。 <b>鎮痛作用が強い</b> 。 プロドラッグ（成分が <b>体内に吸収されてから活性化し効果を発揮する薬</b> ）のため、 <b>胃腸障害は少なめ</b> 。 <b>15歳未満は禁忌</b> 。
	アスピリン (アセチルサリチル酸)		解熱作用、鎮痛・抗炎症作用がある。 <b>15歳未満は禁忌</b> 。 <b>胃腸障害に注意</b> 。
	イブプロフェン		解熱作用、鎮痛・抗炎症作用がある。消炎作用に優れる。 <b>15歳未満は禁忌</b> 。
	エテンザミド		解熱作用、鎮痛・抗炎症作用がある。効き目はおだやか。
	イソプロピル アンチピリン		プロスタグランジン合成阻害に基づくが、 <b>より中枢性に働き</b> 解熱作用、鎮痛作用がある。 <b>発疹（ピリン疹）</b> に注意。
アセトアミノフェン	脳の痛みを感じる 部分に働きかける	解熱作用、鎮痛作用がある。抗炎症作用はほとんどない。 <b>小児でも使える</b> 。	



# ■ 解熱・鎮痛、抗炎症のメカニズム

## アセトアミノフェンは中枢に作用（熱を体外へ逃がす作用）

解熱・鎮痛作用を示すが抗炎症作用はほとんどない。  
 プロスタグランジン（PG）の産生抑制作用が弱いため  
 消化管、血小板、腎臓等への影響が少ない。



## ■ 感冒薬配合成分（抗炎症成分）

### ■ グリチルリチン酸（甘草）

カンゾウの主成分で**抗炎症作用**のほか、**抗アレルギー作用**もある。**偽アルドステロン症**に注意。

### ■ トラネキサム酸

活性化した**プラスミン**を抑えて**起炎物質の産生を防ぎ**、炎症症状を改善。  
のどの痛み、はれに良く効く。OTC薬では、トラネキサム酸は、**成人一日750mgが最大量**。

750mg/日

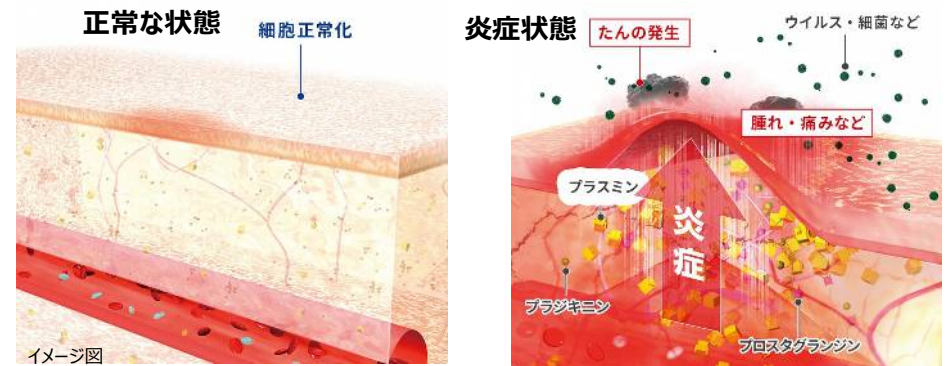


420mg/日



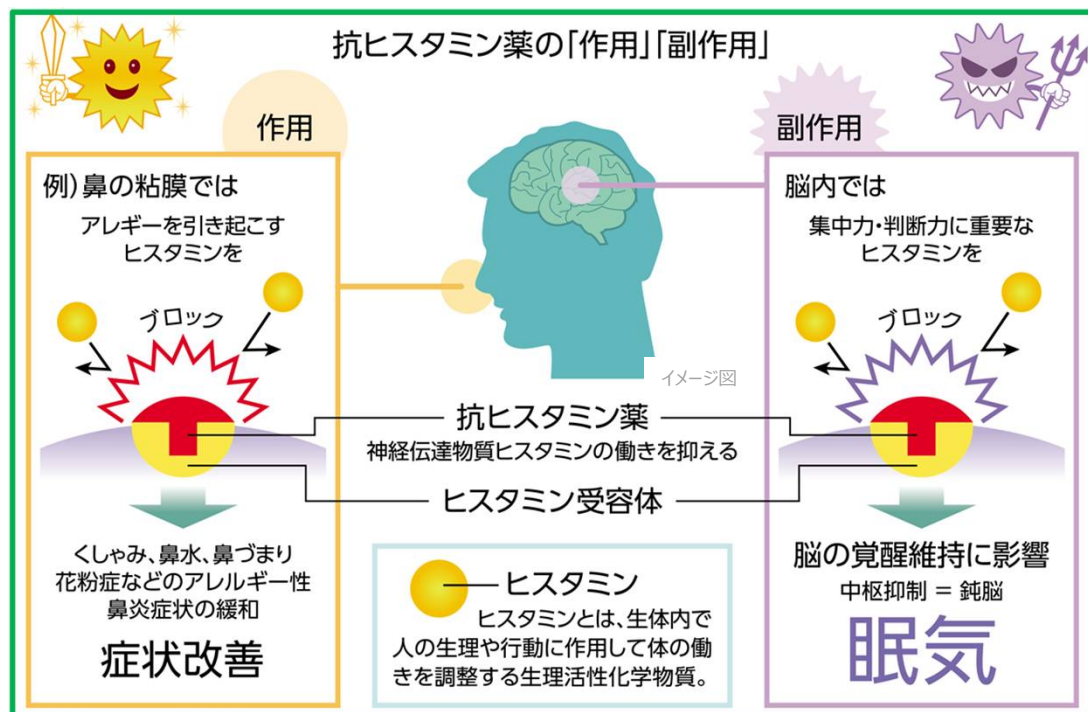
### 上気道炎発生のメカニズムとトラネキサム酸の作用

トラネキサム酸は、異常に活性化した炎症部位のプラスミン系を抑えることにより、起炎物質の産出を防ぎ、炎症症状を改善する。**【抗プラスミン作用】**



## ■ 感冒薬配合成分（抗ヒスタミン成分）

ヒスタミンH<sub>1</sub>受容体にヒスタミンと競合的に結合し、ヒスタミンの作用を阻害し、鼻みず、くしゃみ、鼻づまりなどのアレルギー症状をしずめる。**症状：くしゃみ、鼻水、鼻づまり**



ヒスタミンは、**脳を覚醒させるはたらきも持っている**。  
そのため、抗ヒスタミン薬を服用すると、脳の覚醒作用が  
はたらきづらくなり、**眠気**が発生してしまう。

### 感冒薬配合の主な抗ヒスタミン成分

- ・クロルフェニラミンマレイン酸塩
- ・クレマスチンフマル酸塩
- ・メキタジン
- ・カルビノキサミンマレイン酸塩 など

※感冒薬配合の抗ヒスタミン成分は「抗コリン作用」を併せ持つ。（鎮静作用）

### 感冒薬配合の抗コリン作用成分（鼻水）

- ・ベラドンナ総アルカロイド
- ・ヨウ化イソプロパミド

そのため、「**相談すること**」には  
「**排尿困難、緑内障の診断を受けた人は、  
医師に相談する**」が記載されている。

## ■ 感冒薬配合成分（抗ヒスタミン成分）

	一般名	医療医薬品 商品名	OTC代表 商品名	Tmax (hr)	t 1/2 (hr)	脳内H1 受容体 占拠率
第一世代	クロルフェニラミンマレイン酸塩	ポララミン	ルルアタックEXプレミアム	3.0	7.9	鎮静性
	ジフェンヒドラミン塩酸塩	レスタミン	レスタミンコーワ ドリエル	—	—	鎮静性
	クレマスチンフマル酸塩	タベジール	新ルルA錠DXα	4.0	—	鎮静性
第二世代	ケトチフェンフマル酸塩	アレロック	ザジテンAL鼻炎カプセル	2.8	6.72	鎮静性
	メキタジン	ゼスラン (3・6mg)	ストナリニ	6.70~6.74	5.43~6.65	軽度 鎮静性
	セチリジン塩酸塩	ジルテック (10mg)	新コンタック鼻炎Z	1.5	6.79	非鎮静性
	エピナスチン塩酸塩	アレジオン (錠)	アレジオン	1.9	9.2	非鎮静性
	フェキソフェナジン塩酸塩	アレグラ (錠)	アレグラFX	2.0	16.6	非鎮静性
	クラタジン	クラリチン (錠)	クラリチンEX	1.37	11.5	非鎮静性
	ベポタスチンベシル酸塩	タリオン (錠)	タリオンAR	1.2	2.4	非鎮静性

非鎮静性→眠気少ない

## ■ 感冒薬配合成分（鎮咳成分）

黄色ライン成分：濫用等のおそれのある医薬品



	成分名（製品名）	特長
麻薬性	コデインリン酸塩	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ <b>依存性</b>がある</li> <li>▪ ジヒドロコデインはコデインの<b>2倍の力価</b></li> <li>▪ <b>腸管運動の抑制作用</b></li> <li>▪ <b>授乳中は服用してはいけない</b></li> <li>▪ <b>12歳未満の使用禁忌</b>（2019年7月～）</li> </ul>
	ジヒドロコデインリン酸塩	
非麻薬性	デキストロメトルファン（メジコン）	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 「<b>コデインリン酸塩</b>」に劣らない強力な<b>鎮咳作用</b>を持つ</li> <li>▪ <b>眠気</b>の副作用を起こしやすい</li> </ul>
	チペピジン（アスベリン）	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ <b>目だつた副作用がなく、小児でも使いやすい</b></li> <li>▪ 通常量では「コデインリン酸塩」や「デキストロメトルファン」よりも<b>鎮咳作用が弱い</b></li> </ul>
	ノスカピン	
気管支拡張薬	メチルエフェドリン（メチエフ）	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 鎮咳作用や抗アレルギー作用を持つ <b>中枢興奮作用</b>あり</li> <li>▪ 高血圧・不整脈・糖尿病・甲状腺疾患のある人は、<b>症状を悪化</b>させるおそれがある</li> <li>▪ 興奮作用があるため、<b>ドーピングの禁止薬物</b>（競技会時）に指定されている ドーピングが気になる⇒JSPO『使用可能薬リスト』参考</li> </ul>

## ■ 感冒薬配合成分（去たん成分）

去痰薬は痰の**物理的性状を変化**させたり、**気道粘膜を滑りやすく**して、痰を出しやすくする。

一般名 (医療用名)	特長
グアヤコールスルホン酸カリウム (なし)	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ <b>気道分泌を促進して痰の粘稠度を減少</b>させることにより、痰を出しやすくする去痰成分。</li> <li>✓ <b>弱い消毒作用</b>も有する。</li> </ul>
グアイフェネシン (フストジル)	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ <b>気道分泌を促進して痰の粘稠度を減少</b>させることにより、痰を出しやすくする去痰成分。</li> <li>✓ 「グアヤコール」の味や匂いを改良し、胃粘膜への刺激を減らしたもの。</li> <li>✓ <b>単独では喉症状にほとんど効果がないほど効果は弱い。</b></li> </ul>
カルボシステイン (ムコダイン)	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 医療では、こどもから成人まで、喘息の咳にも多使用。去痰薬の代表的存在。</li> <li>✓ <b>痰の組成を調整して粘度を下げる</b>だけでなく、<b>過剰分泌を抑え、粘膜修復効果</b>もある。</li> </ul>
ブロムヘキシン塩酸塩 (ビソルボン)	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ <b>粘度の低い分泌液を増すことで痰の粘度を下げる</b>作用があり、キレの悪い痰によく用いられる。</li> <li>✓ <b>カルボシステインと併用することがある。</b></li> <li>✓ <b>一時的に、出てくる痰の量が増える</b>ことがある。</li> </ul>
アンブロキシール (ムソルバン)	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ <b>気道粘膜を潤滑にし、痰の粘度を下げてサラサラにして、排出しやすくする</b>去痰薬。</li> <li>✓ <b>一時的に、出てくる痰の量が増える</b>ことがある。</li> <li>✓ <b>ブロムヘキシンの活性代謝物。</b></li> </ul>



## ■ 感冒薬配合成分【プラスオン成分】

### ■ 生薬成分

炎症を抑えたり発汗を促して熱を下げるなど、各生薬のはたらきでかぜの諸症状を緩和。

**麻黄、葛根、甘草、桂皮、生姜** 等

### ■ ビタミン成分

栄養補給・滋養強壮 等

かぜ(発熱)の時に消耗しやすいビタミン又はビタミン様物質を補給。

**ビタミンC、ビタミンB<sub>2</sub>、ヘスペリジン**……粘膜炎の健康維持・回復

**ビタミンB<sub>1</sub>**……疲労回復

**ニンジン、チクセツニンジン**……強壮作用等

### ■ カフェイン類

中枢神経系を刺激して鎮痛作用を補助等。

**カフェイン水和物、無水カフェイン** 等

**※配合されているから、抗ヒスタミン成分や鎮静成分の眠気が解消されるわけではない。**



## ■ 風邪に用いる漢方薬の注意を要する構成生薬

1. **麻黄（マオウ）** 交感神経刺激作用があり、発汗、解熱、鎮咳、鎮痛薬として麻黄湯、葛根湯、小青竜湯、麻杏甘石湯、五虎湯など

### 【薬理作用】

鎮咳、抗アレルギー作用（水、エタノールエキス）、  
交感神経興奮（血圧上昇、気管支拡張、散瞳、発汗）、  
中枢性鎮咳作用（エフェドリン）、抗炎症作用(プソイドエフェドリン)。

### 【使用上の注意】

「高齢者」「体が虚弱な人」「胃腸の弱い人」「発汗 傾向の著しい人」  
「排尿困難のある人」  
「高血圧、心臓病、腎臓病または甲状腺機能障害の診断を受けた人」は相談すること

## ■ 風邪に用いる漢方薬の注意を要する構成生薬

### 2. 甘草（カンゾウ） 緩和、鎮痛、鎮咳、去痰、解毒薬として

麻黄湯、葛根湯、桂枝湯、桂枝加葛根湯、香蘇散、銀翹散、小青竜湯、柴胡桂枝湯、小柴胡湯、竹茹温胆湯、麻杏甘石湯、五虎湯、柴胡桂枝乾姜湯、補中益気湯、麦門冬湯など

#### 【薬理作用】

消化器性潰瘍抑制，胃液分泌抑制，鎮痙、鎮咳、  
副腎皮質ホルモン様作用（エキス）・抗炎症、抗アレルギー作用（グリチルリチン）

#### 【使用上の注意】

1日最大配合量が甘草として1g以上含有する製剤（エキス剤⇒原生薬に換算）  
「高齢者」「むくみのある人」「高血圧、心臓病、腎臓病の診断を受けた人」は相談すること  
まれに起きる重篤な症状「**偽アルドステロン症**、ミオパチー：手足のだるさ、しびれ、  
つっぱり感やこわばりに加えて、脱力感、筋肉痛があらわれ、徐々に強くなる」

## ■ **かぜの初期**に用いる漢方薬

### ▪ **麻黄湯**（麻黄、杏仁、桂皮、甘草）

【効能効果】

**体力が充実して、かぜのひきはじめ**で、**さむけがして**発熱、頭痛があり咳が出て**身体のふしぶしが痛く汗が出ていない**ものの次の諸症：感冒、鼻かぜ、気管支炎、鼻づまり

**ポイント**：体力が充実、ひきはじめ、寒気、汗が出ていない、身体のふしぶしの痛み

### ▪ **桂枝湯**（桂皮、芍薬、生姜、大棗、甘草）

【効能効果】

**体力虚弱**で**汗が出る**ものの次の諸症：**かぜの初期**

**ポイント**：体力虚弱、汗が出る、かぜの初期

## ■ **かぜの初期**に用いる漢方薬

- **葛根湯**（葛根、**麻黄**、桂皮、芍薬、生姜、大棗、**甘草**）

### 【効能効果】

**体力中等度以上**のもの次の諸症：**感冒の初期**（汗をかいていないもの）、**鼻かぜ**、**鼻炎**、**頭痛**、**肩こり**、**筋肉痛**、**手や肩の痛み**

**ポイント**：体力中等度以上、ひきはじめ（汗なく寒気）、肩のこり

- **桂枝加葛根湯**（桂皮、芍薬、大棗、生姜、**甘草** + 葛根）

### 【効能効果】

**体力中等度以下**で汗が出て肩こりや頭痛があるもの次の諸症：**かぜの初期**

**ポイント**：体力中等度以下、汗が出る、肩こりや頭痛、かぜの初期



## ■ かぜの初期に用いる漢方薬

- **香蘇散**（香附子、蘇葉、陳皮、生姜、**甘草**）

### 【効能効果】

**体力虚弱**で、**神経過敏**で気分がすぐれず**胃腸の弱いもの**の次の諸症：かぜの初期、**血の道症**

**ポイント**：体力虚弱、神経過敏、胃腸が弱い、初期

- **銀翹散**（金銀花、連翹、荊芥、桔梗、牛蒡子、薄荷、淡豆豉、竹葉、芦根、**甘草**）

### 【効能効果】

かぜによる**のどの痛み・口（のど）の渴き・せき・頭痛**

**ポイント**：のどが痛む、渴き（熱感のあるかぜの初期に用いる）

- **小青竜湯**（**麻黄**、桂皮、芍薬、半夏、乾姜、細辛、五味子、**甘草**）

### 【効能効果】

**体力中等度またはやや虚弱**で、**うすい水様のたんを伴う咳や鼻水**が出るものの次の諸症：  
鼻炎、アレルギー性鼻炎、花粉症、感冒、気管支炎、気管支ぜんそく、むくみ

**ポイント**：体力中等度またはやや虚弱、うすい水様の痰を伴う咳、鼻水



## ■ 過渡期に用いる漢方薬

### ■ 柴胡桂枝湯（桂枝湯と小柴胡湯）

（柴胡、桂皮、黄ごん、半夏、芍薬、人参、**甘草**、生姜、大棗）

#### 【効能効果】

**体力中等度またはやや虚弱**で、多くは腹痛を伴い、ときに微熱・寒気・頭痛・はきけなどのあるものの次の諸症：かぜの中期から後期の症状、胃腸炎

**ポイント**：体力中等度またはやや虚弱、かぜをひいて2～3日以上経過、微熱に寒気がみられることも。胃腸症状や痛みの症状を伴う場合が多い。

## ■ **かぜの後期**に用いる漢方薬

- **小柴胡湯** (柴胡、黄芩、人参、半夏、生姜、大棗、**甘草**)

### 【効能効果】

**体力中等度**で、ときに**脇腹からみぞおちにかけて苦しく**、**食欲不振**や**口の苦味**があり、**舌に白苔**がつくものの次の諸症：かぜの後期の諸症状、胃炎、胃痛、胃腸虚弱、食欲不振、はきけ、疲労感

**ポイント**：体力中等度、胸腹部の違和感、食欲不振、口の苦味、舌の白苔

※消炎作用にすぐれ胃炎やかぜの後期などに用いるが、体を乾燥させる性質があるので、漫然と使い続けることは避ける。

- **竹茹温胆湯** (柴胡、竹茹、麦門冬、茯苓、人参、半夏、生姜、陳皮、香附子、枳実、黄連、桔梗、**甘草**)

### 【効能効果】

**体力中等度**のものの次の諸症：かぜ、インフルエンザ、肺炎などの**回復期**に熱が長引いたり、また平熱になってもさっぱりせず、**咳や痰が多くて安眠できない**もの。

**ポイント**：体力中等度、回復期に咳や痰が多くて安眠できない



## ■ かぜの後期に用いる漢方薬

- 麻杏甘石湯（麻黄、杏仁、甘草、石膏）

### 【効能効果】

**体力中等度以上**で、せきが出て、ときにのどが渇くものの次の諸症：せき、小児ぜんそく、気管支ぜんそく、気管支炎、感冒、痔の痛み

**ポイント**：体力中等度以上、咳が出て、ときにのどが渇く（⇒水様の痰ではない）

- 五虎湯（麻黄、杏仁、甘草、石膏、桑白皮（消炎作用））

### 【効能効果】

**体力中等度以上**で、**せきが強くでる**ものの次の諸症：せき、小児ぜんそく、気管支ぜんそく、気管支炎、感冒、痔の痛み

**ポイント**：麻杏甘石湯よりはげしい咳に。

- 麦門冬湯（麦門冬、半夏、粳米、大棗、人参、甘草）

### 【効能効果】

**体力中等度以下**で、**たんが切れにくく**、ときに強くせきこみ、又は咽頭の乾燥感があるものの次の諸症：からせき、気管支炎、気管支ぜんそく、咽頭炎、しわがれ声

**ポイント**：体力中等度以下、痰が切れにくい又は咽頭の乾燥感がある（高齢者など）



## ■ **かぜの後期**に用いる漢方薬

- **柴胡桂枝乾姜湯**（柴胡、黄芩、桂皮、乾姜、括楼根、牡蠣、**甘草**）

### 【効能効果】

**体力中等度以下**で、冷え症、貧血気味、神経過敏で、動悸、息切れときにねあせ、頭部の発汗、口の乾きがあるものの次の諸症：**更年期障害、血の道症、不眠症、神経症、動悸、息切れ、かぜの後期の症状、気管支炎**

**ポイント**：体力中等度以下、かぜの後期、冷え症、貧血気味、頭部の発汗、口の乾き

- **補中益気湯**（人参、黄耆、白朮、陳皮、乾姜、大棗、**甘草**、升麻、柴胡、当帰）

### 【効能効果】

**体力虚弱**で、**元気がなく、胃腸のはたらきが衰えて**、疲れやすいものの次の諸症：  
虚弱体質、疲労倦怠、病後・術後の衰弱、食欲不振、ねあせ、感冒

**ポイント**：体力虚弱、元気がなく、胃腸のはたらきが衰えて、疲れやすい、寝汗

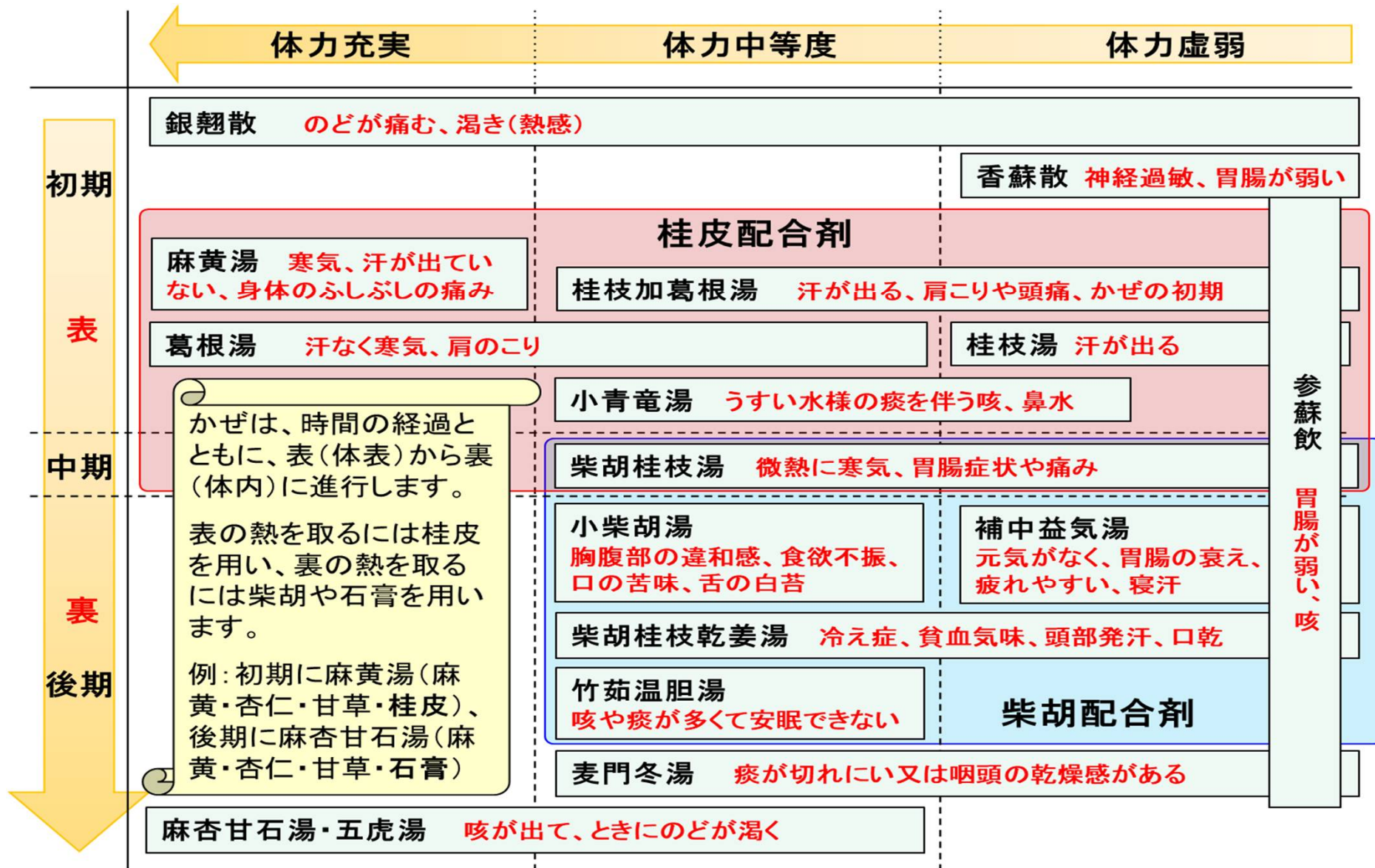
- 時期を選ばない** ⇒ ■ **参蘇飲**（蘇葉、陳皮、枳実、葛根、半夏、茯苓、人参、生姜、大棗、**甘草**、木香、桔梗、前胡）

### 【効能効果】

**体力虚弱**で、**胃腸が弱い**ものの次の諸症：感冒、せき

**ポイント**：体力虚弱、胃腸が弱い、咳





## ■ 受診勧奨について

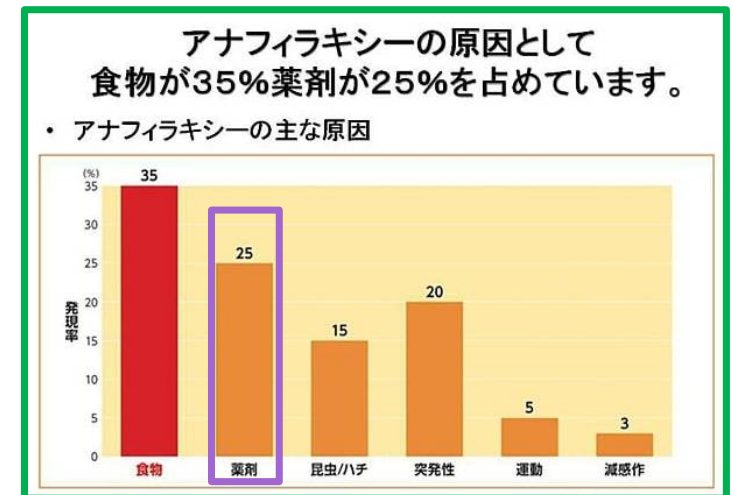
### 稀な重篤症状と関連成分

症状の名称	症状	関連成分
ショック（アナフィラキシー）	服用後すぐに、皮膚のかゆみ、蕁麻疹、声のかすれ、くしゃみ、のどのかゆみ、息苦しさ、動悸、意識の混濁などがあらわれる。	くすり全般
皮膚粘膜眼症候群（SJS） 中毒性表皮壊死融解症（TEN） 急性汎発性発疹性膿疱症（AGEP）	高熱、目の充血、目やに、唇のただれ、のどの痛み、皮膚の広範囲の発疹・発赤、赤くなった皮膚上に小さなブツブツ（小膿疱）が出る、全身がだるい、食欲がない等が持続したり、急激に悪化する。	NSAIDs 抗生物質 降圧剤 その他多数

アナフィラキシーで怖いのは**血圧低下などによるショック**により死に至ることがあること。

その**対策と予防**が最も大切。

**薬物でのアレルギー疾患歴を知っておき**その薬が再使用されないよう**自己管理**することが大切。



## ■ 皮膚粘膜眼症候群 スティーブンス・ジョンソン症候群 (SJS)

抗生物質、**解熱鎮痛薬**、抗てんかん薬、降圧剤、**かぜ薬**など多くの薬に報告がある。症状は皮膚粘膜眼に症状が出るのが特徴。**高熱、眼に充血、めやに、瞼の腫れ、眼が開けずらい、唇や陰部のただれ、排尿排便時の痛み、喉の痛み**など。発熱、喉の痛みなど症状の似通った他の疾患と診断されるなどして発見が遅れることがある。しかし、ひとたび発症すると、重篤な症状に陥りやすいことが知られている。  
発現頻度：**人口100万人あたり年間1～6人。**



体幹の浮腫性紅斑と水泡  
(びらんの例)



口唇の出血性びらん  
(血痂の例)

## ■ 中毒性表皮壊死融解症（TEN）ライエル症候群

全身が**広範囲にわたり赤くなり、全身の10%以上にやけどのような水ぶくれ**、皮膚のはがれ、ただれなどが認められ、高熱（38℃以上）、皮膚や口にできるぶつぶつ、目が赤くなるなどの症状を伴う重症の皮膚障害。

原因と考えられる**医薬品の服用後2週間以内に発症することが多く、数日以内あるいは1ヶ月以上経ってから起こることもあります。**

発現頻度：**人口100万人あたり年間0.4～1.3人。**

※スティーヴンス・ジョンソン症候群と中毒性表皮壊死融解症は**一連の病態**と考えられ、**中毒性表皮壊死融解症の症例の多くがスティーヴンス・ジョンソン症候群の進展型。**



乳児に生じた中毒性表皮壊死融解症



背部から臀部の表皮壊死とびらん

## ■ 急性汎発性発疹性膿疱症 (AGEP)

**高熱 (38℃以上)** とともに、急速に全身が赤くなったり、赤い斑点がみられ、さらにこの赤い部分に多数の小さな白っぽい膿みのようなぶつぶつ (**小膿疱**) が出現する病態。原因医薬品の**服用後数時間～数日以内に発症**する場合と**服用後1～2週間後に発症**する場合がある。**原因医薬品**の中止で軽快するが、高齢者、肝・腎機能障害を有している場合、回復が遅れることがある。血液検査値の異常も認められる。  
**発現頻度：人口100万人あたり年間1～5人**と推定 (欧米調査)

### 推定原因医薬品

抗生物質としてペニシリン系 (アンピシリン、アモキシシリン)、マクロライド系 (ロキシスロマイシン)、セフェム系 (セファロスポリン)、オキサセフェム系 (フロモキシセフ)、カルバペネム系 (イミペネム)、テトラサイクリン系 (ミノサイクリン)、イトラコナゾール、テルビナフィン (抗真菌薬)、アロプリノール (痛風治療薬)、カルバマゼピン (抗てんかん薬)、ジルチアゼム (降圧薬)、**アセトアミノフェン (鎮痛解熱薬)** などが報告されている。



紅斑上に多発する小膿疱



散在、融合する小膿疱



鼠径部～大腿部の皮疹

## ■ 薬剤性過敏症症候群 (DIHS) Drug-induced hypersensitivity syndrome

重症の薬疹であり、**高熱（38℃以上）**をともなって、**全身に赤い斑点**がみられ、さらに**全身のリンパ節（首、わきの下、股の付け根など）**がはれたり、**肝機能障害**など、**血液検査値の異常**がみられたりする。

通常薬疹とは異なり、原因医薬品の**投与後すぐには発症せずに2週間以上経ってから発症することが多く**、また原因医薬品を中止した後も何週間も続き、**軽快するまで1ヶ月以上の経過を要する**ことがしばしば認められます。

発生頻度は、原因医薬品を使用している**1000人～1万人に1人**と推定されている。

推定原因医薬品は、比較的限られており、主にカルバマゼピン、フェニトイン、フェノバルビタール、ゾニサミド（抗てんかん薬）アロプリノール（痛風治療薬）、サラゾスルファピリジン（サルファ剤）、ジアフェニルスルホン（抗ハンセン病薬）、メキシレチン（不整脈治療薬）、ミノサイクリン（抗生物質）、**アセトアミノフェン（解熱鎮痛薬）**などがある。

入院時



入院後、徐々に腫脹増悪

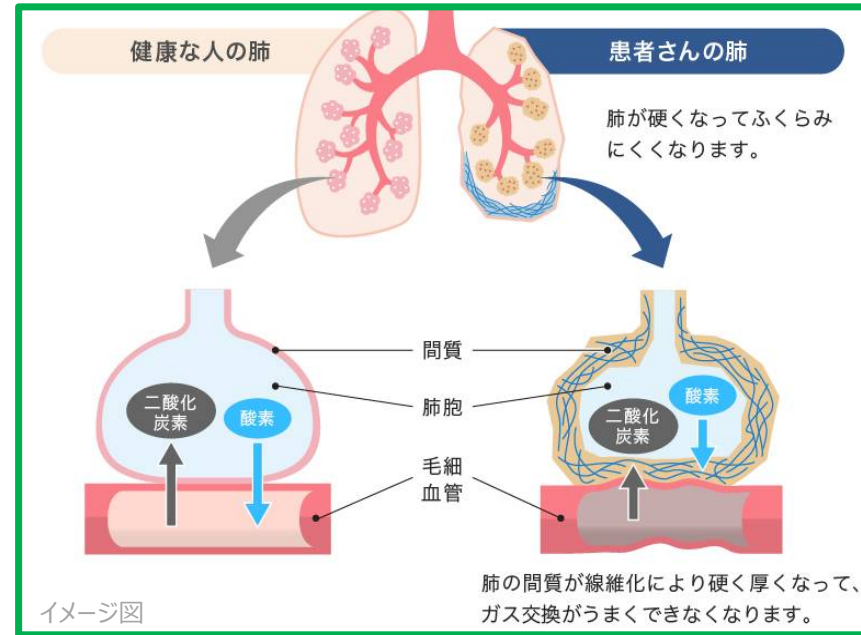
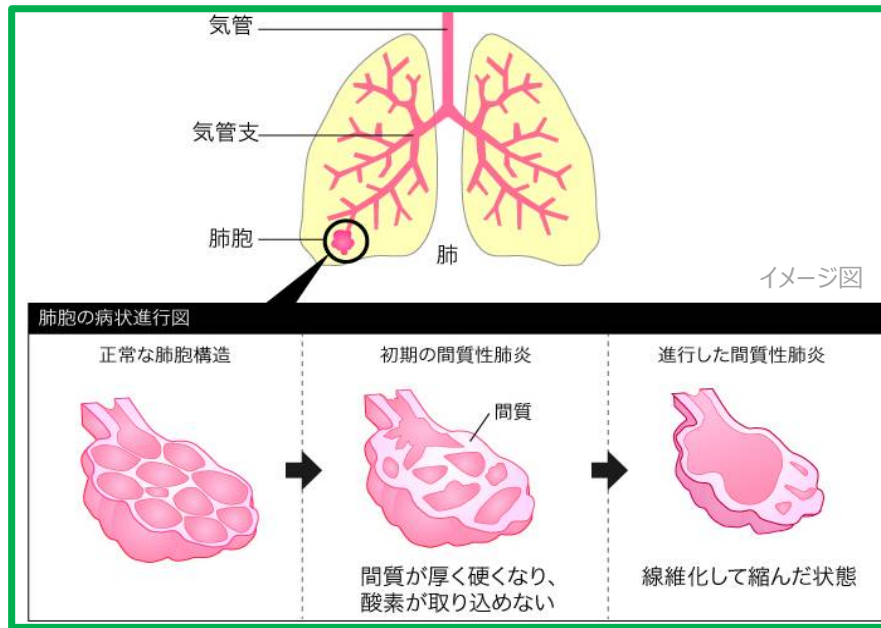


発症メカニズムについては、医薬品などにより生じた**免疫・アレルギー反応**をきっかけとして、**薬疹と感染症**が複合して発症することが特徴と考えられている。



# ■ 間質性肺炎

**肺胞の壁（間質）に炎症がおきる病気。**原因が判明しているものと不明なものに大別される。原因が判明しているものとして、肺に吸い込んだカビ、粉等に対する反応、抗癌剤、抗生物質、不整脈の治療薬、**漢方薬**などの一部などが知られている。



- <特徴>
- ・呼吸困難や呼吸不全
  - ・痰を伴わない
  - ・乾いた咳が続く。



肺が硬くなるため呼吸をしても肺がふくらみにくくなり、**肺活量が低下**。その結果、呼吸によって血液中に取り込まれる酸素の量が減るため、**からだの中の酸素が不足してしまう**。



## ■ 受診勧奨について

### 風邪以外、高熱で疑われる病気

疾患名	特徴
インフルエンザ 第2種学校感染症	高熱、倦怠感、筋肉痛、頭痛などの症状が現れる。
肺炎	高熱、咳、胸痛、呼吸困難などの症状が現れる。
扁桃腺	高熱、喉の痛み、咳、倦怠感などの症状が現れる。
尿路感染症	高熱、頻尿、尿の量が少ない、尿の色が濃い、腹痛などの症状が現れる。
敗血症	体内の感染が広がり、高熱、寒気、頻脈、意識障害などの症状が現れる。
腸炎	高熱、下痢、嘔吐、腹痛などの症状が現れる。
結核 第2種学校感染症	高熱、慢性的な咳、痰、体重減少などの症状が現れる。
全身性エリテマトーデス	自己免疫疾患の一つ。女性に好発。免疫系が正常な組織を攻撃し、全身に炎症を引き起こす。高熱、発疹、疲労感、筋肉痛、貧血などが現れる。

かぜの諸症状（発熱、のどの痛み、鼻みず、鼻づまり、悪寒、頭痛、関節の痛み、筋肉の痛み、せき、たん、くしゃみ）  
以外の症状及び高熱（38℃以上）の場合は、受診勧奨となる。



## ■ 受診勧奨について

### 風邪以外、高熱で疑われる病気（小児）

疾患名	特徴
川崎病	<p>主に小児（主に4歳以下）に発症する全身性の炎症性疾患。  <b>39度以上の高熱</b>が持続、口の周りや手のひら、足の裏などに<b>赤い発疹</b>、結膜炎や口内炎が現れる。赤く腫れた舌（「イチゴ舌」と呼ばれる）や舌の表面に白い斑点が現れることがある。リンパ節（首の後ろや耳の下など）の腫れることがある。            冠動脈瘤ができることがあり、その場合には狭心症や心筋梗塞のリスクが高まる。</p>
しょう紅熱	<p>溶連菌感染によって引き起こされる感染症。主に子供に多く見られる。            39度以上の高熱、体全体に広がる赤い発疹、喉が赤くなり、痛みや咳が生じることがある。舌がイチゴのような赤く腫れた状態になり、舌の表面に白い斑点が現れることがある。</p>
水痘 （水疱瘡） 第2種学校感染症	<p>水痘・帯状疱疹ウイルスによって引き起こされる感染症。            主に子供に多く見られますが、大人も感染することがある。            体全体にかゆみを伴う赤い発疹が現れ、発疹がかゆみを伴うことがある。            発疹が現れる前に高熱が出ることもある。</p>
風疹 （三日ばしか） 第2種学校感染症	<p>風疹ウイルスの飛沫感染により生じる急性の発疹性感染症。            子どもに多く見られる。体全体にわたる薄い赤い発疹が現れ、2～3日で消退する。            発疹が現れる前に発熱が起こることがある。熱は通常、発疹が消えるまで続く。</p>



# 【紹介】ルルブランド ラインアップ

## ルル<sup>®</sup>Aシリーズ

## ルルアタック<sup>®</sup>シリーズ



## ルルアタック<sup>®</sup>プレミアムシリーズ



### 関連品 (その他のルルシリーズ)



第一三共ヘルスケア株式会社



# 【参考】新ルルAシリーズ

シリーズ最上位モデルとしてしっかりとした効き目ながら、ジヒドロコデインリン酸塩を**デキストロメトルファン**に変更することで、**7歳から服用可能**。家庭の常備薬として大人から子供まで服用できます。

用法用量 11歳以上15歳未満 2錠/回 3回/日  
7歳以上11歳未満 1錠/回 3回/日



1回用量（15歳以上）3錠（mg/1日量）		新ルルAゴールドDXa	新ルルAゴールドs	新ルル-A錠s
解熱鎮痛成分	アセトアミノフェン		900	
抗ヒスタミン成分	クレマスチンフマル酸塩		1.34	
鎮咳成分	ジヒドロコデインリン酸塩	—	24	24
	ノスカピン	—	48	48
	デキストロメトルファン 臭化水素酸塩水和物	48	—	—
	dl-メチルエフェドリン塩酸塩		60	
去痰成分	ブロムヘキシン塩酸塩	12	12	—
	グアヤコールスルホン酸カリウム	—	—	240
抗コリン作用成分	ベラドンナ総アルカロイド	0.3	0.3	—
抗炎症成分	トラネキサム酸	420	—	—
カフェイン成分	無水カフェイン	60	75	75
ビタミン成分	ベンフォチアミン	—	24	24



# 【参考】 ルルアタックシリーズ



ルルアタックシリーズ 成人1日量	EX	EX プレミアム	CX	CX プレミアム	NX	NX プレミアム	Fxa
	6錠中	9錠中	6錠中	9錠中	6錠中	6錠中	6錠中 ※
トラネキサム酸	750mg	750mg				420mg	
グリチルリチン酸			39mg	39mg			39mg
イブプロフェン	450mg	600mg	450mg	600mg	450mg	450mg	
イソプロピルアンチピリン							300mg
アセトアミノフェン							450mg
ショウキョウ末							200mg
クレマスチンフマル酸塩	1.34mg				1.34mg		1.34mg
d-クロルフェニラミンマレイン酸塩		3.5mg	3.5mg			3.5mg	
クロルフェニラミンマレイン酸塩				7.5mg			
L-カルボシステイン			750mg	750mg			
ブロムヘキシシン塩酸塩	12mg				12mg		
dl-メチルエフェドリン塩酸塩	60mg	60mg	60mg	60mg	60mg	60mg	60mg
ジヒドロコデインリン酸塩	24mg	24mg	24mg	24mg	24mg	24mg	
ノスカピン			48mg	48mg			48mg
チペピジンヒベンズ酸塩							75mg
ベラドンナ総アルカロイド					0.3mg		
ヨウ化イソプロパミド						6mg	
無水カフェイン		75mg	75mg	75mg	75mg	75mg	75mg
ビタミンB1	25mg	25mg	25mg	25mg	25mg	25mg	
ビタミンB2	12mg	12mg			12mg	12mg	
ビタミンC							300mg
ヘスペリジン						90mg	

※ルルアタックFxaは7歳から服用可能（7歳～15歳未満：1日最大量3錠）



## ■ 総合感冒薬の「使用上の注意」解説（当社製品該当中心）

### 1) 【**してはいけない**】 長期連用の目安（**共通事項**）

- 1) 漫然と長期連用すると副作用が現れるおそれがありますので、症状が良くなった場合は服用・使用を中止する。  
改善がみられない場合は、ほかに原因があると考えられる。  
総合感冒薬として、**約1週間を目安**。  
**5-6回（約2-3日）服用しても症状がよくなる場合は、服用を中止し商品の添付文書を持って医師、薬剤師又は登録販売者に相談する。**

**各商品添付文書または各社ホームページにて確認ください**

## ■ 総合感冒薬の「使用上の注意」解説（当社製品該当中心）

### 2) 【相談すること】妊娠又は妊娠していると思われる人（共通事項）

2) 妊娠時に投与される薬物の副作用としては、

- a) 母体への影響      b) 母体への作用を介した胎児に対する影響  
c) 胎児への障害作用   d) 胎児への催奇形作用      が考えられる。

**妊娠の場合、一般に薬剤に対する感受性が高まり、副作用が強く発現する場合がある。**

特に妊娠初期は、胎児の中枢神経や重要な臓器が発生・分化していく時期。

このため、**妊娠時は、薬剤を服用/使用する前に医師に相談してその指示を受ける必要があります。**

- アスピリン、イブプロフェン、アセトアミノフェン、イソプロピルアンチピリンなど**解熱鎮痛成分**において、妊娠末期のラットに投与した実験において、**胎児に弱い動脈管収縮**がみられた報告がある。アスピリン、イソプロピルアンチピリンでは**動物実験**により、**催奇形性**の報告あり。
- 麻薬性鎮咳成分（コデイン系）は、吸収された成分の一部が胎盤関門を通過し**胎児に移行**した報告があった。

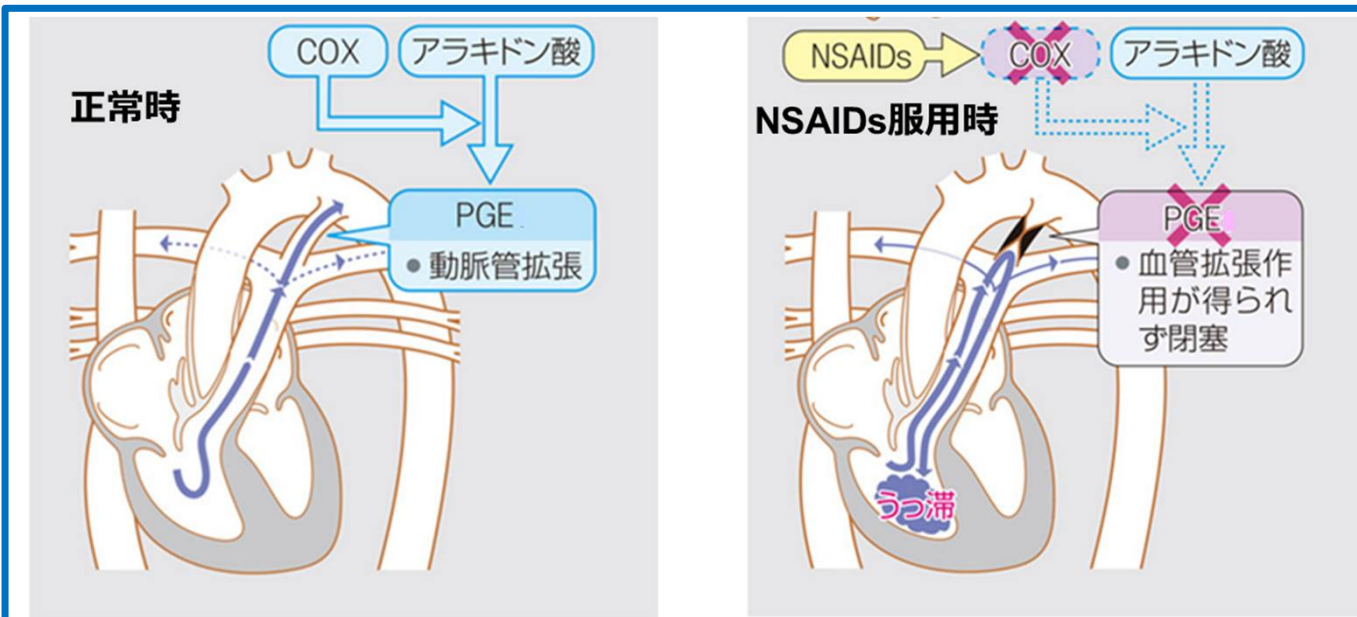


## ■ 総合感冒薬（解熱鎮痛薬）使用上の注意

**【してはいけない】 出産予定日12週以内の妊婦**

妊娠後期の使用により、**胎児の動脈管の早期閉鎖が起こり、出生後に遷延性肺高血圧症や動脈管開存症が起きることがある。**

遷延性肺高血圧症児の母親においてNSAIDsの使用率が高かったとの報告もある。  
また、NSAIDsによる**可逆的な腎機能低下により胎児尿産生が減少し、羊水過少**となりうる。



**安全性が高い薬**  
**アセトアミノフェン**

**催奇形性・動脈管への影響がほとんどない。**  
比較的安全性が保証されているため、第一選択薬として用いられている。

## ■してはいけないこと

次の人は服用しないこと

出産予定日12週以内の妊婦。

- ・イブプロフェン含有製剤（添付文書改訂指示平成 24 年 4 月 24 日）

一般用⇒ <https://www.pmda.go.jp/files/000144886.pdf>

主な理由：胎児の動脈管収縮作用



- ・アスピリンを含有する製剤、アスピリンアルミニウムを含有する製剤  
（添付文書改訂指示：平成18年7月7日）

一般用⇒ <https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/calling-attention/revision-of-precautions/0154.html#16>

主な理由：出血（医療用平成18年3月24日参照）

医療用⇒ <https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/calling-attention/revision-of-precautions/0151.html#1>



## ■ 総合感冒薬の「使用上の注意」解説（当社製品該当中心）

### 3) 授乳中の人。

#### ➤ してはいけないこと 対象成分：コデイン含有製剤

コデインの代謝能が著しく高いタイプの遺伝子を持つ授乳婦がコデイン含有製剤を服用した場合、コデインの活性代謝物である **モルヒネ** が高濃度に母乳へ移行することにより、乳児でモルヒネ過量摂取のリスクが高まる可能性がある。

（**乳児の過度の傾眠、哺乳困難、呼吸困難**の報告がある）

#### ➤ 相談すること

対象成分：**dl-メチルエフェドリン塩酸塩、イブプロフェン、クレマスチンフマル酸塩**

母乳に移行することが知られています。乳児への具体的な有害反応は不明で、安全性は確立していないため、服用前に専門家に相談して服薬指導等の指示を受ける必要性がある。

妊娠中、胎児に移行する量と比較すると格段に少なく（**1-10%以下**）、赤ちゃんに影響を及ぼす可能性は少ないと考えられます。





**お客様の症状を確認し、  
最適な対応をお願いいたします。**

**ご清聴ありがとうございました！**

